

大妻女大家政 木野内清子 河野ゆり子 ○熊田和美 東谷市子

目的 近年、総模様の振りそでに対して、無地に伊達紋風な紋を配した振りそだが、個性的で価格も適当なものとして提供されている。伊達紋は、江戸中期に流行したとされる替紋、しゃれ紋で、いままた、新しいデザインとして登場してきたのを機に伊達紋についての考察を試みた。

方法 伊達紋雛形を中心に、文献・実物資料により考察した。

結果 伊達紋雛形は、江戸中期に小袖雛形と同様に出版された伊達紋だけの雛形である。伊達紋は、小袖雛形にみられる腰高模様・半模様・すそ模様・裏模様にも配されており、小袖の上部空間を飾る有効な手段として用いられている。当時の紋章の大きさは一例として、『守貞漫稿』によれば、普通、曲尺1.2~4寸とあるが、伊達紋はたて2寸弱、よこ2.5~3寸ほどに描かれているものが多い。紋章としては大きいですが、小袖の全体模様からみればごく小さい伊達紋に盛られた模様の内容は、花鳥・四季の風物・年中行事・故事等、多岐にわたり、その密度は極めて濃い。当時、裏模様が用いられた要因の一つに、度重なる禁令があげられているが、小さな伊達紋にも、江戸人の反骨と諧謔が垣間みられるように思われる。